



株式会社東陽テクニカ (東証プライム：8151)

2026年9月期第3四半期 決算説明資料

2026年8月5日

“はかる”技術で未来を創る



1. 2026年9月期第3四半期 決算状況
2. 受注高・受注残高
3. 2026年9月期 通期業績予想
4. 株主還元
5. 中期経営計画“TY2027”の進捗

1. 2026年9月期第3四半期 決算状況

2026年9月期第3四半期 決算ハイライト

(単位：百万円)	2025年9月期 Q3実績	2026年9月期 Q3実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
売上高	23,445	28,405	+4,960	+21.2%
売上総利益	10,130	12,665	+2,535	+25.0%
営業利益	1,080	2,716	+1,636	+151.4%
営業利益率	4.6%	9.6%	+5.0P	—
経常利益	1,227	3,225	+1,998	+162.6%
当期純利益	609	2,081	+1,472	+241.7%

Q3(4～6月)は取引量が少なかったため每期減益となるも、当期は計画を上回り、Q3累計の業績は前年同期比で**大幅な増収増益**

✓ 売上高：前年同期比 **21.2%増**

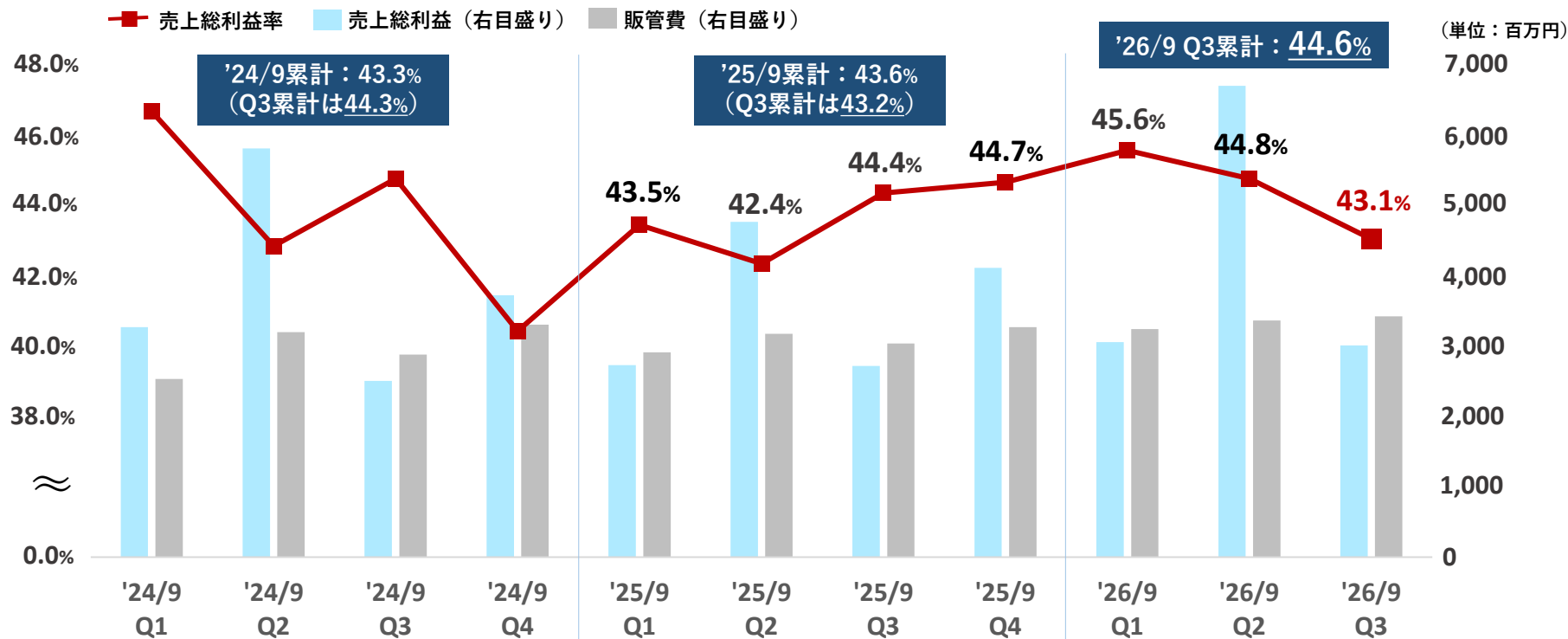
- ・ **Q3では過去最高となる284億5百万円**
- ・ **先進モビリティ事業、EMC／大型アンテナ事業、防衛／海洋事業**が大きく増加。
- ・ 1月に子会社化したソニックガード社の新規連結も業績に貢献

✓ 営業利益：前年同期比**151.4%増**

- ・ 売上高の増加と売上総利益率の上昇に加え、M&Aに係る増益効果により、**大幅に増加**

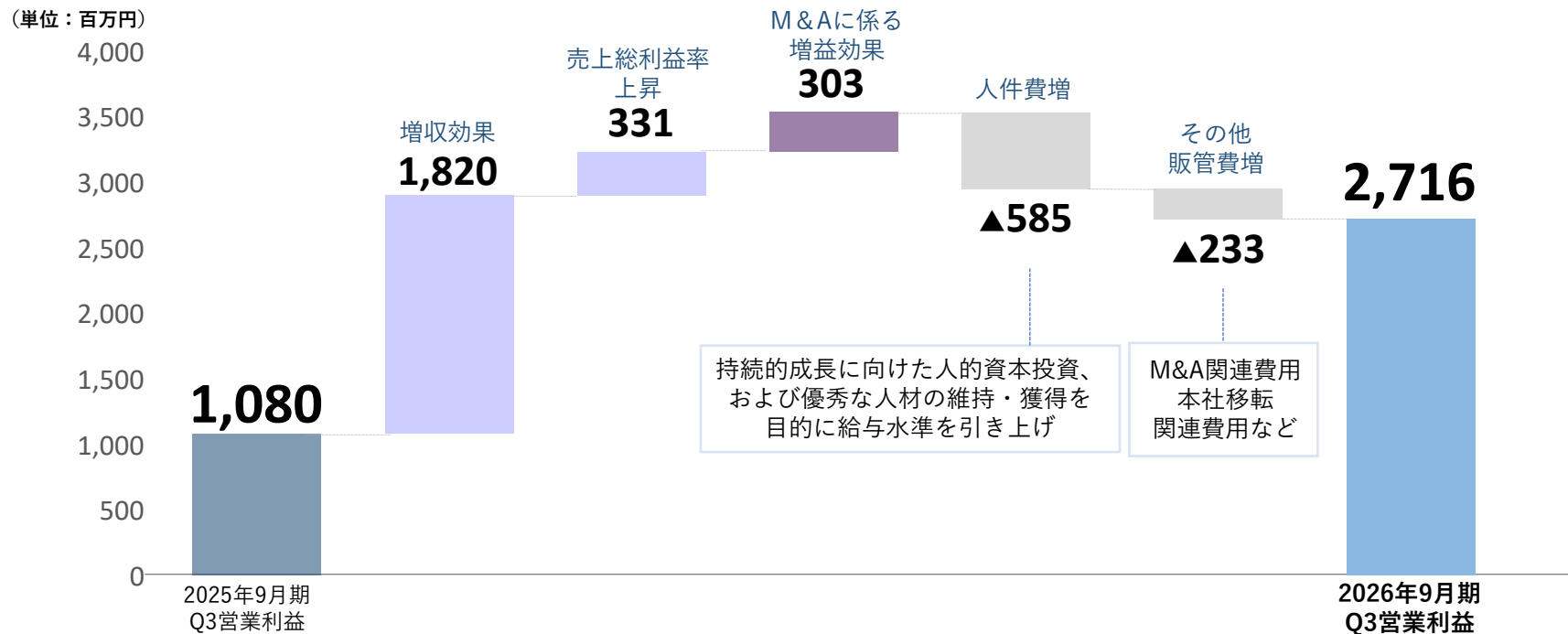
売上総利益率の推移

Q3は円安進行の影響を受けるも、累計では高い売上総利益率を維持（前年同期比+1.4p）



営業利益増減要因（対前年同期比）

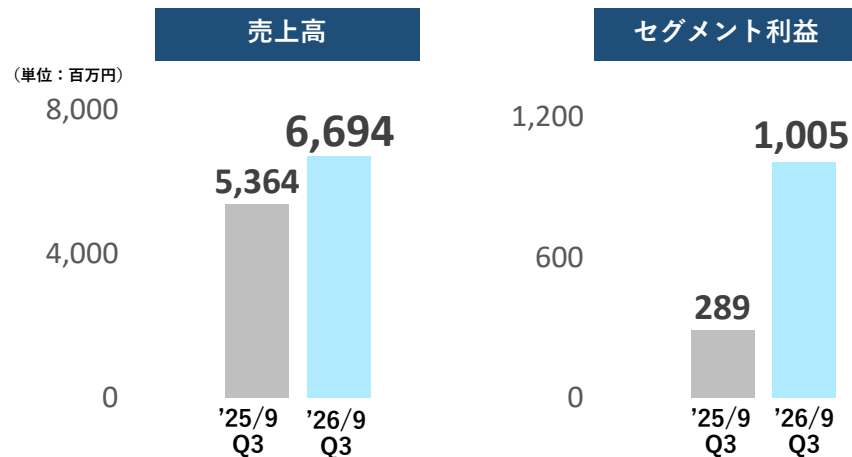
増収効果、売上総利益率上昇およびM&Aに係る増益効果により大幅に増益



セグメント別 売上高／利益分析

先進モビリティ

(単位：百万円)	2025年9月期 Q3実績	2026年9月期 Q3実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
売上高	5,364	6,694	+1,330	+24.8%
セグメント利益	289	1,005	+716	+247.3%



事業概況

- 前期に計上を予定していたAD/ADAS（自動運転／先進運転支援システム）開発向け評価システムの海外大型案件の一部とEV充電関連の大型案件を当期に計上。また、振動騒音計測関連製品が防衛・航空宇宙分野で伸長し、売上高は大きく増加
- EV充電関連製品におけるソリューション提案などの高利益率案件の増加によってセグメント利益も大幅に伸長

セグメント別 売上高／利益分析

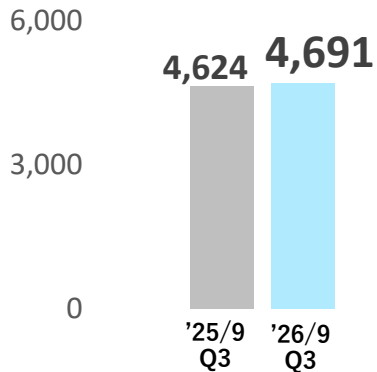
脱炭素／エネルギー

(単位：百万円)	2025年9月期 Q3実績	2026年9月期 Q3実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
売上高	4,624	4,691	+67	+1.4%
セグメント利益	900	933	+33	+3.6%

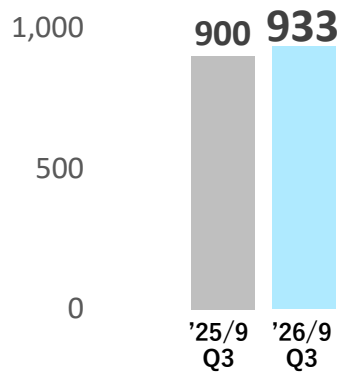


売上高

(単位：百万円)



セグメント利益



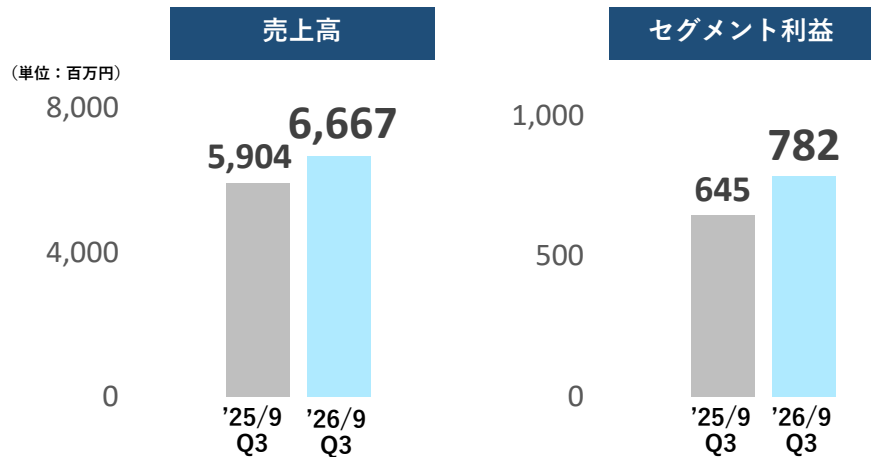
事業概況

- 主力の電気化学測定システムが中国を含め伸びを欠いたものの、事業全体としては堅調に推移し、売上高は前年同期比で微増
- 売上高の増加に伴い、セグメント利益も微増

セグメント別 売上高／利益分析

情報通信／情報セキュリティ

(単位：百万円)	2025年9月期 Q3実績	2026年9月期 Q3実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
売上高	5,904	6,667	+763	+12.9%
セグメント利益	645	782	+137	+21.1%



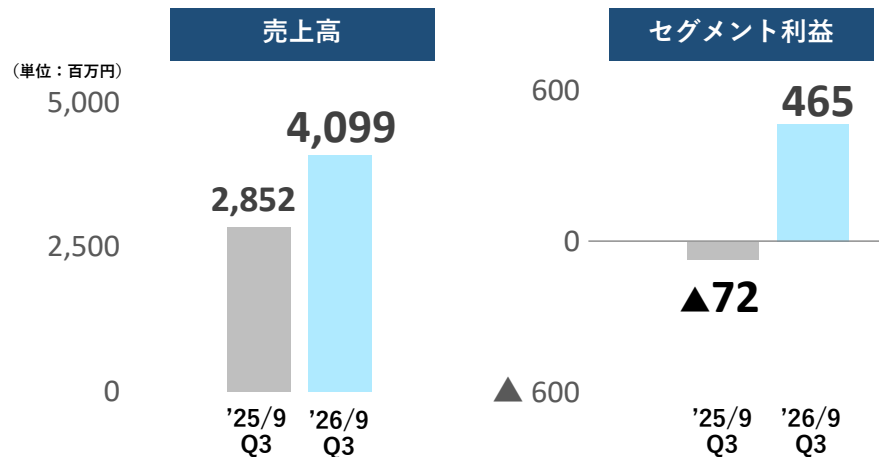
事業概況

- 主力の大手通信事業者向けネットワーク性能試験製品が計画どおりに推移し、サイバーセキュリティ関連製品も堅調に推移
- 連結子会社化したソニックガード社が業績の押し上げに寄与

セグメント別 売上高／利益分析

EMC／大型アンテナ

(単位：百万円)	2025年9月期 Q3実績	2026年9月期 Q3実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
売上高	2,852	4,099	+1,247	+43.7%
セグメント利益	▲72	465	+537	- %



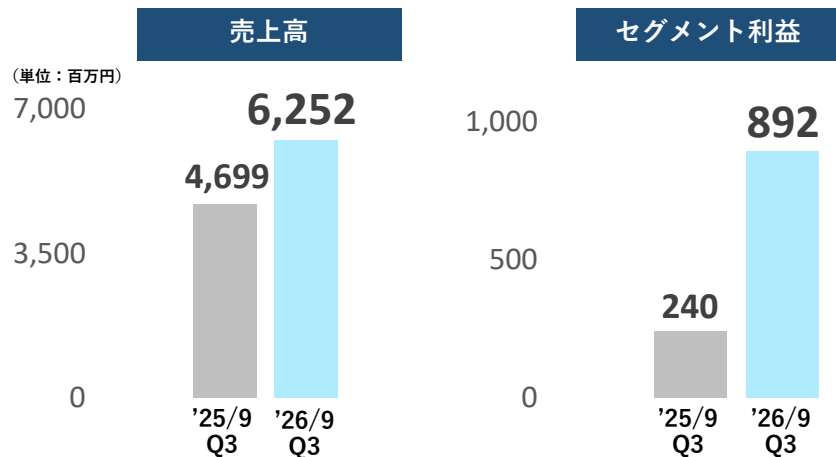
事業概況

- 大手自動車メーカー向けを含む複数の大型案件を計上するなど国内事業が好調に推移し、売上高は大きく伸長
- 大型案件や校正（キャリブレーション）サービス案件が増加したこと、および前年同期に計上していた新製品の開発費負担がなくなったことにより、セグメント損益も大きく改善

セグメント別 売上高／利益分析

その他事業（「防衛／海洋」「ソフトウェア開発支援」「その他」）

(単位：百万円)	2025年9月期 Q3実績	2026年9月期 Q3実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
売上高	4,699	6,252	+1,553	+33.1%
セグメント利益	240	892	+652	+271.1%



事業概況

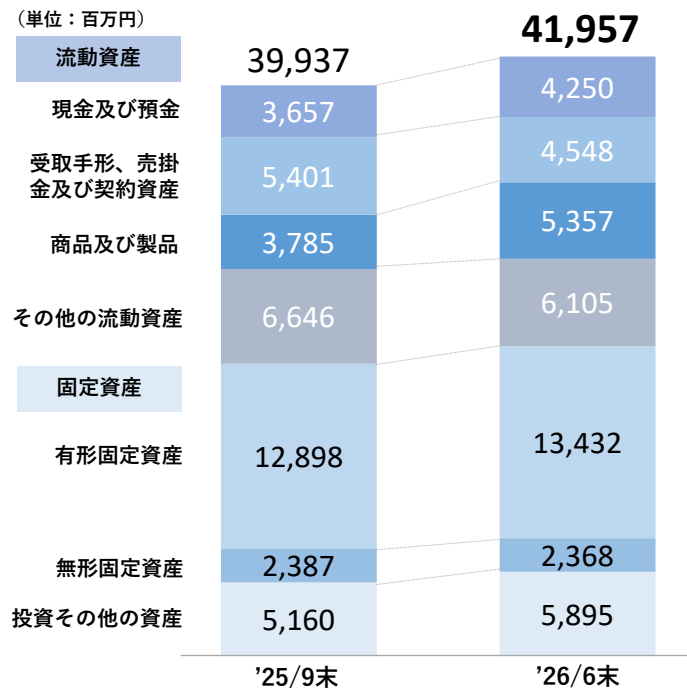
- 防衛／海洋事業において、防衛関連の複数の大型案件を計上したことや、マルチビーム測深機が好調に推移したこともあり、売上高が大幅に増加
- 売上高の増加に加え、前年同期に防衛／海洋事業で生じた一過性のコストが当期は発生しないことにより、同事業の収益性が回復し、セグメント利益も大幅に増加

連結貸借対照表 主要項目

総資産

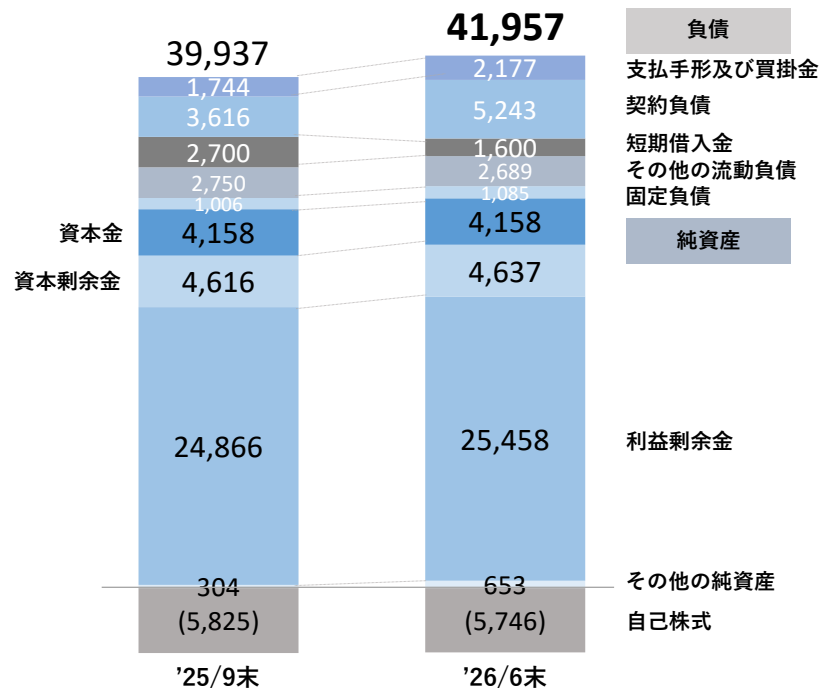
■取引が活発となる第4四半期に向けて、「商品及び製品」が増加

(単位：百万円)



負債・純資産

■4月に開始する保守契約が多く、それに伴う顧客からの前払いが増えるため、「契約負債」が増加



2. 受注高・受注残高

受注高・受注残高概況

Q3までの受注高は期初計画を上回り、順調に推移

✓ 受注高：前年同期比6.0%減

- ・ 防衛関連で最大規模の案件を受注した前年同期には及ばないものの、期初計画を上回って推移

✓ 受注残高：前年同期比3.0%増

- ・ 受注残高は前年同期を上回り、さらに積み増し

(単位：百万円)	2025年9月期 Q3実績	2026年9月期 Q3実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
受注高	31,337	29,459	▲1,878	▲6.0%
受注残高	24,924	25,679	+755	+3.0%

セグメント別 受注高／受注残高分析

(単位：百万円)		'25/9 Q3実績	'26/9 Q3実績	前年同期比		事業概況
				増減金額	増減率	
先進モビリティ	受注高	7,200	6,429	▲771	▲10.7%	■ 受注高は自動運転関連、EV充電関連が自動車業界の投資抑制の影響を受けて前年同期を下回る ■ Q3（3か月）の受注高は前年同四半期を上回り、受注残高は微増
	受注残高	6,655	6,721	66	+1.0%	
脱炭素／エネルギー	受注高	4,546	4,030	▲516	▲11.3%	■ 受注高は低温磁気関連が好調だったものの、主力の電気化学、水素事業において、自動車関連の案件が投資抑制の影響を受ける。中国事業も国産品優遇政策の影響により減少 ■ 受注高の減少により、受注残高も前年同期比減
	受注残高	2,034	1,970	▲64	▲3.1%	
情報通信／ 情報セキュリティ	受注高	6,353	8,183	+1,830	+28.8%	■ 情報通信分野とサイバーセキュリティ分野が好調に推移したほか、ソニックガードの新規連結も貢献し、受注高は増加 ■ 好調な受注により、受注残高はさらに増加
	受注残高	4,184	4,948	+764	+18.3%	

セグメント別 受注高／受注残高分析

(単位：百万円)		'25/9 Q3実績	'26/9 Q3実績	前年同期比		事業概況
				増減金額	増減率	
EMC／大型アンテナ	受注高	3,986	4,102	+116	+2.9%	■ 中国ビジネス不振の影響はあったものの、防衛関連の大型案件受注などにより、受注高は増加 ■ 売上計上が順調に進み、受注残高は減少
	受注残高	3,727	3,298	▲429	▲11.5%	
その他事業 (防衛／海洋、ソフトウェア開発支援、その他)	受注高	9,251	6,713	▲2,538	▲27.4%	■ 受注高は、防衛／海洋事業の大型受注があった前年同期からは減少。ソフトウェア開発支援事業はやや減少し、その他事業はやや増加 ■ ソフトウェア開発支援事業、その他のマテリアルサイエンス関連の増加により、受注残高は増加
	受注残高	8,322	8,739	+417	+5.0%	
(うち防衛／海洋)	受注高	5,488	2,906	▲2,582	▲47.1%	■ 最大規模の案件を含む2件の大型受注があった前年同期からは減少したものの、マルチビーム測深器の前倒し受注もあり、計画を上回って推移
	受注残高	6,093	5,805	▲288	▲4.7%	

3. 2026年9月期 通期業績予想

2026年9月期 通期連結業績予想

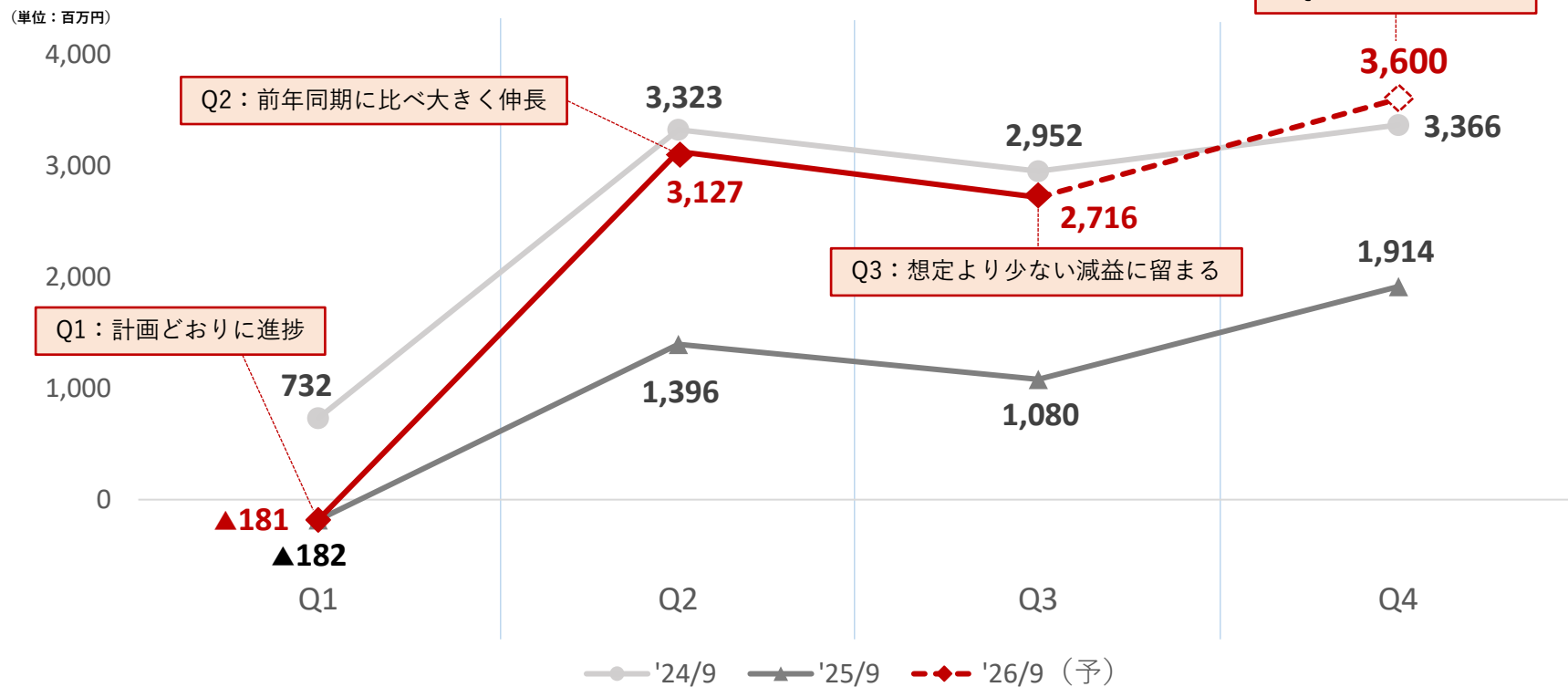
今期は大幅な増収増益、一部の事業環境の変化を注視

- ・好業績であった2024年9月期を上回り、期初予想どおり**売上高は過去最高、営業利益も高水準に**
- ・米国の関税やEV政策の転換、資材高騰などが当社の主要顧客である**国内外の自動車メーカーの業績に影響を及ぼしつつあり、足元では投資抑制や案件遅延の動きが散見**。円安進行圧力が続く**為替と共に今後の動向を注視**
- ・中国市場では、景気停滞による設備投資抑制と中国政府による**国産品優遇政策の影響**を受けており、付加価値の高い製品ラインアップの入れ替えなどで挽回を図る

(単位：百万円)	2024年9月期 実績	2025年9月期 実績	2026年9月期 予想	前期比	
				増減金額	増減率
売上高	35,042	32,559	39,000	+6,441	+19.8%
営業利益	3,366	1,914	3,600	+1,686	+88.0%
営業利益率	9.6%	5.9%	9.2%	+3.3p	—
経常利益	3,375	1,985	3,700	+1,715	+86.4%
当期純利益	2,522	1,195	2,600	+1,405	+117.5%

2026年9月期 営業利益の見通し

営業利益の四半期推移と見込み



4. 株主還元

配当について

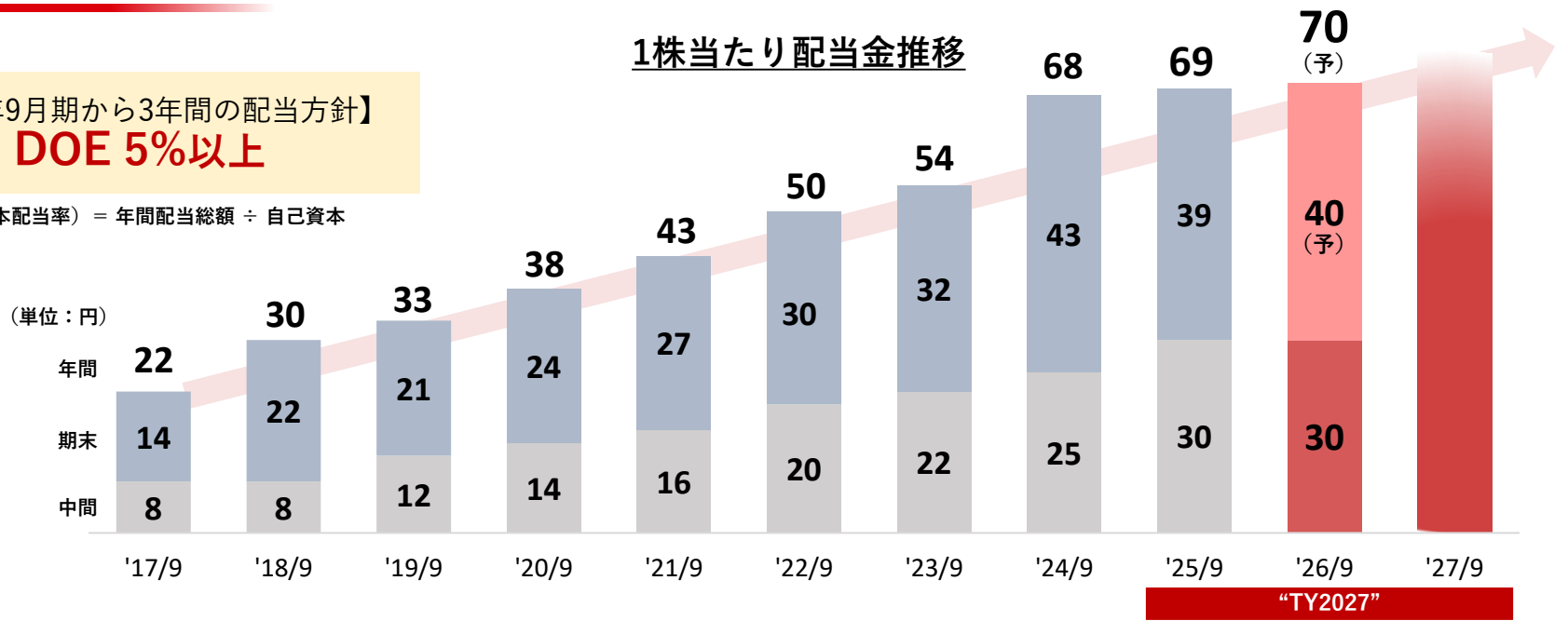
通期では過去最高の1株当たり70円を予定

“TY2027”で10年連続増配を実現し、その後も増配を目指す

【2025年9月期から3年間の配当方針】

DOE 5%以上

※DOE（自己資本配当率）＝ 年間配当総額 ÷ 自己資本



自己株式の取得・消却について

資本効率の向上および株主還元の充実を図るとともに、将来的な株式の希薄化懸念を低減し、資本政策の透明性を高めるため、**自己株式の取得と消却を実施**

●自己株式の取得

取得対象株式の種類	当社普通株式
取得し得る株式の総数	1,100,000株（上限）※発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合：5.09%
株式の取得価額の総額	15億円（上限）
取得期間	2026年8月6日から2026年12月30日まで
取得の方法	東京証券取引所における市場買付

●自己株式の消却

消却する株式の種類	当社普通株式
消却する株式の総数	4,000,000株 ※消却前の発行済株式総数に対する割合： 15.33%
消却後の発行済株式総数	22,085,000株
消却予定日	2026年9月18日

株主優待制度について

株主還元の強化を図るべく、株主優待制度の導入を決定 9月末の株主様を対象にプレミアム優待倶楽部のポイントを進呈



- ・2026年以降、毎年9月末日の株主名簿で300株以上保有する株主様に、株主優待として**プレミアム優待倶楽部のポイントを進呈**（最初の権利確定日は2026年9月28日）
- ・ポイントは5,000種類以上の優待商品やAmazonギフトカードと交換可能
- ・ポイントは繰り越しや他社プレミアム優待倶楽部と合算して使用することも可能

※「プレミアム優待倶楽部」は
(株)ウィルズの登録商標です

保有株式数	進呈ポイント数	総合利回り(配当+優待)※
300株～500株未満	5,000ポイント	4.32%
500株～1,000株未満	10,000ポイント	4.49%
1,000株以上	15,000ポイント	4.24%

※2026年8月4日終値ベースで、
各カテゴリー必要最低株数の
総合利回り

当社株主様限定の特設ウェブサイト「東陽テクニカ・プレミアム優待倶楽部」は、2026年12月開始を予定しています。
株主優待品の詳細、株主優待のお申込み受付開始時期等につきましては、以下のページに概要を掲載しておりますのでご参照下さい。
<https://toyo.premium-yutaiclub.jp>

5. 中期経営計画“TY2027”の進捗

中期経営計画“TY2027”

中期経営計画“TY2027”（2025年9月期～2027年9月期）の経営指標と戦略

■経営指標

（2027年9月期） 売上高 **450**億円 + α (M&A) 営業利益 **45**億円 ROE **11**%

■事業戦略

1. 注力すべき事業分野

- ・防衛ビジネス
- ・脱炭素／エネルギービジネス
- ・先進モビリティビジネス

2. 高付加価値の提供による差別化

- ・リカーリングビジネスのさらなる拡大
- ・自社開発製品の事業拡大

3. 海外事業の拡大

- ・海外売上を増加させるための拠点設置

4. 成長戦略を加速するM&A、新事業

■財務・資本戦略

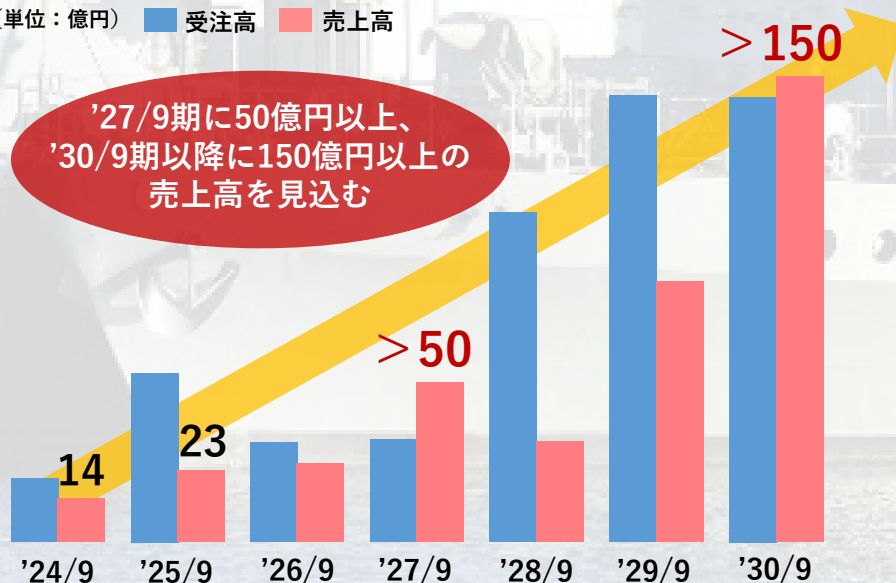
■サステナビリティ経営

1. 注力すべき事業分野—防衛ビジネス

各事業で防衛大型案件を複数受注。今後も継続的な大型案件獲得が見込まれ、
当社業績に大きく貢献する成長事業へ

防衛ビジネスの受注高・売上高見込み

(単位：億円) ■ 受注高 ■ 売上高



TOPIC

■ 高性能レドームメーカーと販売代理店 契約を締結

- ・ 米国SHEERGARD Composite Solutions社（SCS社）と販売代理店契約を締結し、**高性能レドーム製品の国内での本格展開を開始**
- ・ レドームはレーダーや通信アンテナを風雨・雪などから保護する製品。長期的な設備運用とライフサイクルコスト低減に貢献。SCS社製品は他社品をはるかに凌ぐ電波透過性と高耐久性を実現
- ・ 当社では、防衛力強化や衛星通信、次世代通信インフラの拡大に伴う需要増加に対応し、アンテナ製品との組み合わせによるトータルソリューションを提供

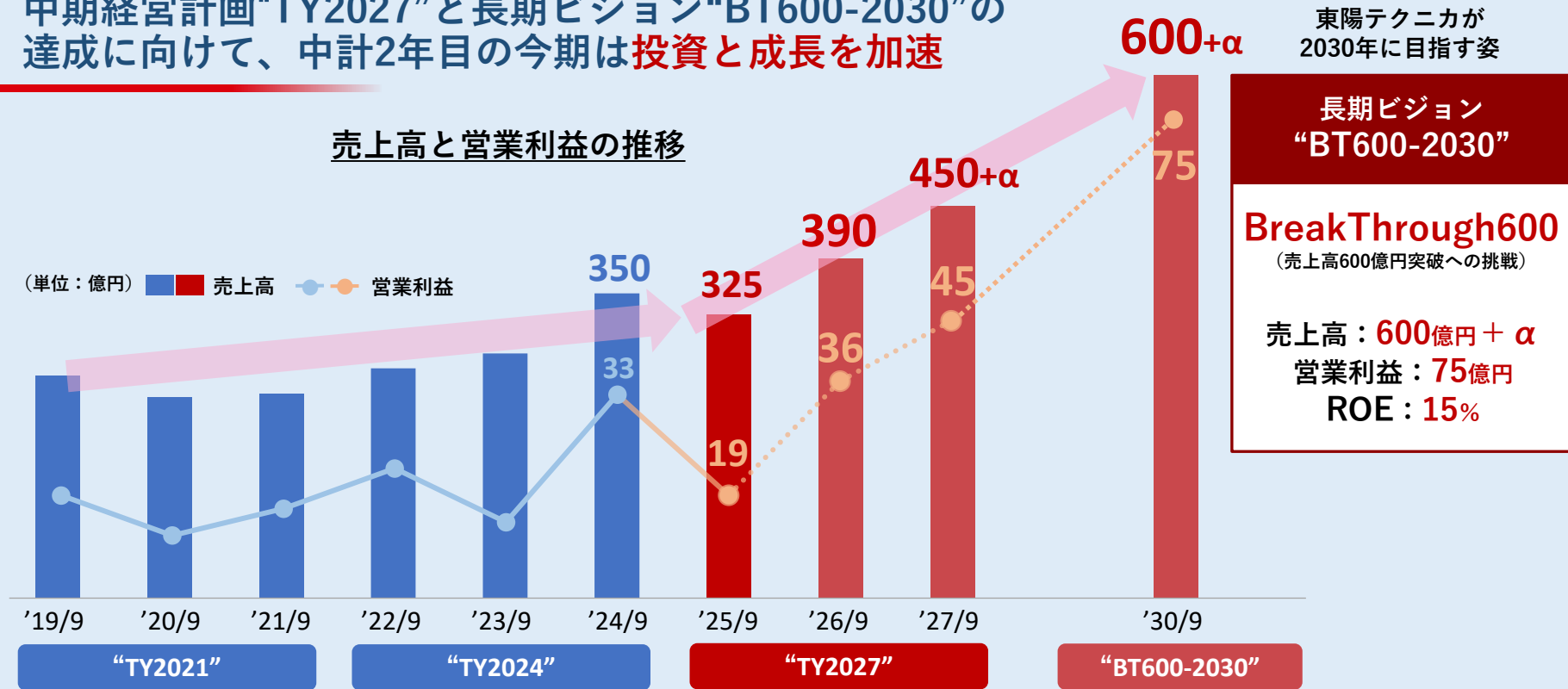


平面型レドーム

“TY2027” 業績の進捗と長期ビジョン

中期経営計画“TY2027”と長期ビジョン“BT600-2030”の達成に向けて、中計2年目の今期は**投資と成長を加速**

売上高と営業利益の推移



IR ニュースメール

<https://www.toyo.co.jp/ir/mail-magazine/>



IRニュースメール
配信登録はこちら

当社のIR情報をタイムリーにメールでお届けいたします
ぜひご登録ください

IR サイト

<https://www.toyo.co.jp/ir/>

個人投資家向けページより
当社社長と著名投資家との
会社説明対談動画を
ご覧いただけます



本資料にて開示されているデータおよび将来に関する予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものであり、経済情勢や市場動向の変化等、様々な理由により変化する可能性があります。従いまして、本資料は、記載された目標・予想の達成および将来の業績を保証するものではありません。

お問い合わせ先
株式会社東陽テクニカ
経営企画部
toyo-ir@toyo.co.jp

“はかる”技術で未来を創る



東陽テクニカ